

平成29年度学校評価実施報告書

学校番号 76

学校名 千葉県下総高等学校

課程名 全日制

領域	自己評価の結果 (達成状況・結果の分析)	改善方法 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方策)
学校経営	<ol style="list-style-type: none"> 1 ホームページを刷新したことで、情報発信がしやすい環境が整い、教育活動の様々な領域について積極的に情報発信を行った。閲覧数も飛躍的に増え、地域はもとより全国各地からも反響があった。 2 学校評価では、授業の評価が昨年度より向上した。 3 昨年度に比べ、退学者は1/3以上減少した。学校評価においても、「学校生活に満足している」との回答が昨年度より5.4%上昇した。 4 日頃の教育活動の成果が各種大会や資格取得、地域との連携の場で発揮できた。また専門技術の確実な習得を図ることができた。 5 学校ホームページの更新を頻繁に行うとともに、報道機関への情報提供も積極的に行った。広報紙で紹介されたことにより、学校開放講座にも定員を上回る応募があった。受講者からも好評だった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 ホームページによる情報発信の重要性について職員で共通理解を図り、引き続き積極的に取り組む。 2 習熟度別や少人数授業で個に応じた指導を行い、基礎・基本の知識や技術を身につけさせる。また、わかる授業、楽しい授業に向け、継続して授業改善を行う。 3 委員会活動に生徒が積極的に参加できるよう適切に支援する。 4 園芸科、自動車科、情報処理科とも学校内外の活動発表会等に積極的に参加し、専門教育の充実につなげる。 5 自動車科は、県、成田市双方の開放講座に協力したが、今後はどちらか一方か、もしくは学科で分担して協力する等、整理が必要である。
学習指導	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価では「授業に満足している」と回答していた生徒が67.3(昨年は62.3%、一昨年は53.8%)など、この2年間で13.7%上昇した。生徒が主体的に取り組める授業展開を行うようになった結果だと分析できる。 2 授業公開を4回実施。参加した保護者すべてが、授業内容に工夫が見られるとアンケートに回答している。 3 生徒指導を継続して行うことで、授業に臨む態度や服装等に改善が見られた。 4 年2回の職員相互間の授業公開を実施。お互いの課題等について指摘し、授業力の向上に努めた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒がより主体的に学べるよう、授業内容について更なる改善を図る。 2 授業内容が理解できない生徒をなくすとともに、理解度の高い生徒への対応を適切に行う。 3 授業開始時の準備の徹底と規律ある態度と服装での授業参加について継続して指導する。 4 わかる授業、楽しい授業、身につく授業の実践のため教員同士が相互の授業公開を実施するなどして切磋琢磨し、一層の授業改善を図る。
生徒指導	<ol style="list-style-type: none"> 1 年間、のべ120回の登下校指導を実施。遅刻率の減少、マナー向上に効果があった。 2 4月に部活動集会を実施する等、部活動の活性化を図った。 3 交通安全等の講話時に感想を書かせ、理解を深めた。 4 学期に1回、担任による個人面談を実施した。また、スクールカウンセラーと緊密な連携を図り、適切な個別指導を行うことができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 登下校指導を継続させ、効果的な声かけによって指導の効果を高める。 2 部活動集会と部活動清掃等を組み合わせて実施し、更なる活性化を目指す。 3 講話の内容等について検討を重ね、より実践的で生徒の意識を高められる講話を計画する。 4 スクールカウンセラーや地域特別支援教育コーディネーター等との連携を強化し、個に応じた適切な指導を行う。
キャリア教育	<ol style="list-style-type: none"> 1 就職先開拓のため40社を訪問した。 2 インターンシップは5社で実施し、8名が参加した。 3 3年生になってからの進路活動を見据えて、1年生に向けて計8回の進路ガイダンスを実施した。 4 印旛農業事務所と連携し、就農体験実習や就農促進講座を実施した。就農体験実習には3名、就農促進講座には20名の参加があった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 進路資料室・進路相談室の活用方法の指導を2年生から始める。また、求人状況の照会方法の改善を図る。 2 多くの生徒が参加するよう啓発活動等に努める。 3 外部専門家による進路講演会及び面接ガイダンスを実施する。 4 後継者育成について学校の現状を農業事務所に伝え、講座の充実を図る。実習については体験受け入れ農家の確保と、生徒の積極的参加を促す。
特別	<ol style="list-style-type: none"> 1 LHRを計画的に実施した。 2 学校行事、生徒会行事、農業クラブ活動等を年間 	<ol style="list-style-type: none"> 1 LHR等の計画策定を継続していく。 2 学校行事、生徒会活動の活性化を継続することに加

活動	計画に従って実施し、主体的な態度が養われた。また、複数の生徒が全国大会で上位入賞を果たした。	えて、学科間の連携も強化していく。
特色ある教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 ユネスコスクールとしての活動を、生徒会活動や産業教育と関連づけた上で、地域に根ざしたテーマ設定や、学科横断的な展開で推進した。 2 寮教育での基本的な生活習慣の確立は概ね達成できた。集合時間の厳守、各取組への姿勢や服装等も、入寮後、大幅に改善した。 3 生産技術科では、農業技術検定の補習を計画し実施できた。プロジェクト学習は各部門で発表に備えまとめ上げた。多くの外部イベントに参加し、生徒の積極性や意欲を確認できた。 4 航空車両整備科では、個別指導を徹底させ、個々の生徒の技術向上が図られた。また地元企業の協力を得て、新技術習得のための教材の整備を行った。 5 情報ビジネス科では、検定受検を積極的に進め、多くの生徒がより高い資格を手にした。また、職業人として備えるべき技能やマナーを身に付けさせた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 本校の様々な教育活動を「持続可能な開発のための教育」の視点から捉え直すことにより、個々の取組の目標を明確化し、それらを有機的に関連づけて学校全体の教育力の向上を図る。 2 基本的な生活習慣の確立・人間関係づくりは概ね達成できたが、生徒による自治という面も、強化する。 3 課題研究発表会を学校行事として位置付け、表彰規定について見直す。農業後継者の育成に関して、生徒の自覚を促す機会を増やし地域に貢献する人材を育てる。また、校内での農業クラブ活動を充実させ目に見える形で表す。 4 整備士試験の合格率を向上させ、最新の整備技術の導入を推進する。 5 資格取得について積極的に支援し合格率の向上を図る。また、生徒の進路に対する意識を高め、目的意識を持って学校生活を送る。

学校評価の公表について (手段・時期・内容等)	3月中に本校ホームページ上にアップする。また、次年度第1回の開かれた学校づくり委員会で提示する。
----------------------------	--

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学校経営	<p>1 ホームページ等による積極的な情報発信により、透明性のある開かれた学校経営がなされている。地域との積極的な交流活動も、地域に根ざした学校として信頼を高めている。学校評価について、保護者の回答率が上昇したのも、積極的な情報発信の成果である。</p> <p>2 常に教育活動の「見える化」が図られ、これからの学校経営に明確なビジョンが示されている点は高く評価できる。</p>	<p>1 ホームページ刷新により記事作成がしやすい環境が整った。全国規模での閲覧に対応できるように、記事の充実と迅速なアップを心がけ、情報発信に精力的に取り組む。</p> <p>2 ホームページには、大規模な行事等とともに、本校に係る基本情報や日常的な教育活動についての記事も掲載する。また地域の行事や開放講座等に積極的に参加する。これらの取り組みにより本校教育活動の「見える化」を推進するとともに広く地域に紹介し、志願者の確保につなげる。</p>
学習指導	<p>1 現在の下総高校では、基礎基本を重視した授業を行い、授業内容がわからない生徒の減少に努めている。併せて、コミュニケーション能力を高めるよう授業展開を工夫している。その結果、人の話を聞いて、自分の意見を述べられる姿勢が徐々にできているように思う。この成果はアンケート結果にも表われており、「授業に満足している」と回答した生徒がこの2年間で増加している。現在の取組を継続し、一層の基礎学力拡充に努めて欲しい。</p> <p>2 教員の資質向上を求める声や基礎学力の定着を心配する声が地域から聞かれることがある。職員の日々の真剣な取組や授業に臨む生徒の真摯な姿勢を積極的にPRする必要がある。</p>	<p>1 授業においては、基礎・基本を重視した上で「わかる授業」「身につく授業」を展開し、基礎学力の定着を図る。また、授業についての満足度(67%)も昨年を上回る値となるように授業内容や授業規律に係る指導体制の拡充を図る。</p> <p>2 基礎学力習得の動機付けと確実な定着のために学校設定科目「ベーシック」を実施しているが、内容の拡充に向けて、聞き取りの導入も含め検討をすすめている。また、日々の授業での取組は外部の方にとってはわかりづらい部分なので、ホームページでの紹介や授業見学の機会を頻繁に設けることなどで紹介に努める。</p> <p>3 教員の指導力向上に向けて授業改善を図るため、教員相互の公開授業の拡充を図るとともに、指導技術や最新の教育技法等についての職員研修を実施する。</p> <p>4 学級全体が授業に臨むにふさわしい雰囲気となるよう、教務部、生徒指導部、各学年が連携して授業規律の向上を図る。</p>
生徒指導	<p>1 登下校の様子等から、校内に限らず、校外においても規範意識が定着してきたことがわかる。高校生らしい落ち着きとさわやかな表情の生徒が多く、きちんと挨拶もできる。今後も、保護者と共通理解を図った上で、頭髪・服装指導等に取組んで欲しい。</p> <p>2 主体性を伸ばすという点からも、言われたことをしっかり理解し、自分で考えて行動する姿が見られてきたことは素晴らしい。</p> <p>3 一人ひとりの生徒に感動経験を与えることが必要であり、そのためには生徒が全力投球できる場を与えることが大切である。生徒が全力投球するためには知的な活動だけでなく、具体的な行動を伴って総合的な判断を必要とする場を設定することが望ましい。エコカーレースに取り組む自動車部などは「やる気」を育てる代表例である。</p>	<p>1 登下校指導を継続させ、適切な声かけ等によって指導の効果を高める。また、頭髪・服装指導についても保護者と連携を図った上で、継続的できめ細かい指導を行う。</p> <p>2 生徒会顧問の適切な指導や年度初めの行事の拡充により生徒の自主性を高め、生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>3 傑出した一部の部だけではなく、すべての部の生徒が意欲をもって日々の活動に取り組めるよう職員の指導体制を整備する。また、ホームページの活用も促進し、自信をもって活動に参加できる環境を整える。</p> <p>4 スクールカウンセラー、地域特別支援教育コーディネーター、外国人教育相談等との連携を強化し、個に応じた適切な支援を行い、すべての生徒が安心して学校生活を送れる環境を整える。</p>
キャリア	<p>1 求人状況の照会方法の改善がみられ、40社の企業訪問を実施し、年々進路意識の向上に努めてい</p>	<p>1 年度末の段階で10名程度の進路未定者がいる。次年度は全員の進路決定を目指すために、</p>

リア教育	<p>ることは、生徒の希望進路の実現に向けた適切な支援であり素晴らしい。今後も、進路説明会の充実や企業訪問を実施し、就職・進学等の情報収集及び就職先の開拓に努めてもらいたい。</p>	<p>①就職者の選択の幅を広げるための企業開拓 ②1・2年の段階での意識付け ③情報収集や資料閲覧方法の指導 ④履歴書作成や面接対応に係る個別指導等の拡充を図る。</p>
特別活動	<p>1 学校行事、生徒会行事、農業クラブ活動等を通して、集団や社会の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的実践的な態度が育っている。 2 HRは生徒の学校生活の基盤となる場で、学校教育の単位組織であり出発点である。諸課題に対するためにLHR年間活動計画をしっかりと立て、効果的に展開することを望む。</p>	<p>1 学校行事、生徒会行事、農業クラブ活動ともに、行事の運営に際して教員がリードする場面も散見された。将来的には生徒主体での運営が可能となるよう、次年度以降、生徒に委ねる部分を増やしていく。 2 本年度のLHRでは、学級裁量の日も何回か設定されていたが、直面する課題のためにその時間を活用する学級も多かった。次年度は、ホームルーム活動として体系的な展開となるよう、年度当初に1年間を見通した計画を策定するよう改善を図る。 3 次年度は学科間の連携事業についても生徒主体で積極的に取り組む。</p>
特色あえる教育活動	<p>1 ユネスコスクールとしての活動を通して、生徒会活動や産業教育と関連づけた上で、今後も地域に根ざしたテーマ設定や、学科横断的な展開を推進して欲しい。 2 下総高校の目玉である志耕寮の寮生活は、生徒が規則正しい生活をして、仲良く、自主性、協調性を持ち、豊かな人間性を養う素晴らしい場である。生産技術科の生徒にとっては、集団活動を通して、仲間意識を大切に、基本的生活習慣の確立と望ましい人間関係を育む最適の環境だ。また、通学困難のために、特別入寮生として他学科の生徒が入寮していることは素晴らしいことである。また、各科での魅力的な授業と資格取得を進学や就職につなげ、生徒の卒業後の活躍も期待したい。</p>	<p>1 本校の様々な教育活動を「持続可能な開発のための教育」の視点から捉え直すことにより、個々の取組の目標を明確化し、それらを有機的に関連づけて学校全体の教育力の向上を図る。 2 基本的生活習慣の確立・人間関係づくりは概ね達成できたが、生徒による自治という面も、強化する。 3 課題研究発表会を学校行事として位置付け、表彰規定について見直す。農業後継者の育成に関して、生徒の自覚を促す機会を増やし地域に貢献する人材を育てる。また、校内での農業クラブ活動を充実させ目に見える形で表す。 4 整備士試験の合格率を向上させ、最新の整備技術の導入を推進する。 5 資格取得について積極的に支援し合格率の向上を図る。また、生徒の進路に対する意識を高め、目的意識を持って学校生活を送る。</p>

校長先生の話の中でも、生徒が自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え主体的に判断し行動し、よりよく問題を解決する姿勢が見えています。

ホームページによる最新の情報の発信をし理解向上に努め、「自分達の日々の教育実践を性格に伝えたい」と言う思いがしっかり伝わっています。また、校長先生は、残り2ヶ月となりましたが、常に教職員との意思疎通を図り、生徒にわかる喜びを教える教師の育成の指導に努めていると思います。素晴らしい学校経営を有終の美で飾られたと思います。お疲れ様でした。

- 1 ユネスコスクールとしての活動を、生徒会活動や 産業教育と関連づけた上で、地域に根ざしたテーマ設定や、学科横断的な展開で推進した。
- 2 寮教育での基本的生活習慣の確立は概ね達成できた。集合時間の厳守、各取組への姿勢や服装等も、 入寮後、大幅に改善した。
- 3 生産技術科では、農業技術検定の補習を計画し実施できた。プロジェクト学習は各部門で発表に備えまとめ上げた。多くの外部イベントに参加し、 生徒の積極性や意欲を確認できた。
- 4 航空車両整備科では、個別指導を徹底させ、個々の生徒の技術向上が図られた。また地元企業の協力を得て、新技術習得のための教材の整備を行った。
- 5 情報ビジネス科では、検定受検を積極的に進め、多くの生徒がより高い資格を手にした。また、職業人として備えるべき技能やマナーを身に付けさせた。